



# 東京医療

発行人 理事長 入江 徹也 発行責任者 総務課長 玉津 聡史

東京都中野区中央四丁目59番16号 TEL 03-3382-1231(代) 欄附 03-3382-9991

新渡戸記念中野総合病院ホームページ <http://www.nakanosogo.or.jp> E-mail: [soumu@nakanosogo.or.jp](mailto:soumu@nakanosogo.or.jp)

## ◆股関節よもやま話

今月号は、1月20日（土）に行われた第17回新渡戸記念中野総合病院区民健康講座において、講演いたしました整形外科医長の小谷野岳医師による“股関節よもやま話”の要約版を掲載いたします。どうぞご参考になさってください。

新渡戸記念中野総合病院整形外科医長 小谷野 岳

股関節がすり減ったり変形したりして痛みが出る病気を変形性股関節症と言い、脚の付け根やお尻、腰などが痛いと感じます。歩く時に痛みが出るので「膝が痛い」という人もいます。自分でできる簡単なチェックはあぐらです。あぐらをかいたときに痛みが出たり、左右で開く角度が違ったりする場合は、股関節が悪い可能性があります。



股関節が悪くなる原因はいくつかあります。臼蓋形成不全といって股関節の骨盤側のおわんの部分が小さいと、そこに全体重がかかり軟骨がすり減ってしまいます。日本人に多いです。大腿骨頭壊死は大腿骨頭が腐ってしまう病気で、ステロイドや飲酒が原因と考えられています。関節リウマチは自分の免疫が自分の関節を攻撃して破壊する病気です。臼蓋骨折や大腿骨頭骨折などの外傷も変形の原因となります。骨粗鬆症があるお年寄りは、10cmくらいの高さをドスンと座るだけで起こることがあります。

変形性股関節症の治療は保存療法と、手術療法に分けられます。保存療法は運動療法（筋力増強訓練、ストレッチ、水中歩行など）、薬物療法（内服、関節内注射）、理学療法などがあります。これらの治療法は短期的には疼痛をとることができますが、変形性股関節症の進行を遅らせることはできないとされています。コンドロイチンやグルコサミンなどは症状を軽くする可能性はありますが、効果を誰もが認めるような結果はありません。

保存療法で痛みが改善せず、日常生活に差し障りがある場合は、手術療法を選択します。若い人では骨盤や大腿骨を切って股関節の形を変える骨切術を行うことがあります。ご高齢の方は関節鏡手術や、人工股関節置換術を行います。当院では平均で週に1-2件行っています。人工股関節置換術は、痛い関節を全て人工物に取り替えてしまうため痛みや可動域が改善します。人工股関節の寿命は20年程度です。従来手術法では術後脱臼が1-10%起こると報告されていますが、当院では脱臼が起こりにくい前方系アプローチで手術を行っているため0.2%以下です。手術翌日からリハビリを始め、片側の手術の場合は2-3週間、両側同時手術の場合は3-4週間で退院になります。

変形性股関節症は痛みや可動域制限などで日常生活が障害されます。これに対し我々は患者さんの痛みや社会的背景などを考慮し、一番満足度が高くなるように考えて治療します。痛みがある場合は遠慮なく外来を受診してください。



## ◆心臓カテーテル室の運用を開始しました

循環器内科 増村 麻由美

胸痛、胸部不快感、動悸、呼吸困難でお困りの患者様はいらっしゃいませんか。

心臓の疾患は虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）、心不全、不整脈など、多岐にわたりますが、原因に応じ患者様一人一人のライフスタイルに合った治療法をご提案しております。当院では平成30年1月から心臓カテーテル室の運用を開始いたしました。カテーテルによる根本的な治療を行うことで、これまで我慢されてきた症状を軽減できる可能性があります。

患者様に安心して治療を受けていただけるよう、精密検査および治療の前後には、綿密なフォローアップを行っております。また一方で、内服治療や生活習慣指導にも力を入れております。まずは、循環器内科外来にてご相談ください。



## ◆マスクの自動販売機をご利用ください

今年もインフルエンザの流行が始まったようです。外出された際のマスク着用、帰宅時のうがい・手洗いは感染予防の必須事項となっています。

新渡戸記念中野総合病院では、ご来院の方の利便性を考慮して、マスクが必要な時にいつでも入手できるように、正面玄関を入れて直ぐ右手（写真）と、西側通用口守衛室前の2ヶ所に「マスク自動販売機」を設置いたしております。

販売価格は2枚1組で100円です。100円硬貨を硬貨投入口に入れていただき、ダイヤルを右に180°回していただくと、黄色い箱に入ったマスクが受け皿に出てきます。どうぞ、ご利用ください。



正面玄関内マスク自動販売機

## ◆再診は予約制となりました

昨年12月より、再診は原則“予約制”となりました。診察が終わりましたら医師から次回診察の『予約票』をお受け取りください。次回の診察は、『予約票』に記載された時間が診察の時間となりますので、この予約時間より著しく早い時間帯に受付をされても、予約時間より早い診察にはなりません。また、予約時間を過ぎないように受付をお願いいたします（診察前に血液検査のある方は検査結果が出てからの診療となりますので、予約時間の30分～1時間前に受付・検査をお願いいたします）。なお、予約をされていない方でもこれまでどおり診察は可能ですが、お待たせすることもございますので、ご理解の程お願いいたします。また、予約が済んでいる方で「予約日の変更」をご希望の方は、下記の「予約変更センター」までお電話をお願いいたします。

※初めての方・前回の診察から期間の空いた方等、新規の予約はお電話では行っておりませんので、悪しからずご了承願います。予約をされていない方は、直接ご来院いただき、受付をしていただきますようお願いいたします。



予約変更センター 電話番号： 03-6382-6601（直通）

受付時間： 14:30～16:30（月～金 平日のみ）

## ◆新渡戸記念中野総合病院 市民フォーラム

この度、「在宅医療・看取りと地域医療」をテーマに、在宅医療・地域での支援・医療と医学の発展に関わる分野で御活躍されている先生方をお呼びして講演会を開催致します。どうぞ、奮ってご参加ください。講演会の詳細は、講演会講師が決定次第改めてお知らせいたします。

### 「自分らしい最期をご自宅で迎えるために」 ～在宅看取りの現場から～

日 時：平成30年3月31日（土）午後2時～4時  
 会 場：東京都生協連会館3階会議室（中野区中央5-41-18）  
 定 員：100名（定員になり次第、申し込みを締め切らせていただきます）  
 申込先：地域医療連携室 TEL03-3382-1231（内線211）  
 または総合受付④番窓口

## 2月の小児救急体制

新渡戸記念中野総合病院では、中野区並びに中野区医師会のご協力を得て、小児の初期(1次)救急として「**準夜間小児初期救急医療**」を救急外来で実施しています。

一般診療所の診察時間が終わった後、お子さんが急病の際には、下記の**夜間受付電話**にご連絡のうえご来院ください。15歳以下のお子さんを対象に、小児科医が診療を行います。**※血液検査、点滴等の処置、入院等を必要とする場合は他病院を紹介します。**

2月1日から28日までの、準夜間小児初期救急医療体制は下記の通りです。なお、都合により医師の変更もあり得ますので、ご了承ください。ご不明な点は、下記夜間受付にお問い合わせ願います。

### 2月準夜間小児初期救急担当医

受付時間：毎日午後6時30分～午後9時45分

診療時間：毎日午後7時～午後10時

夜間受付：03-3382-9991



日	月	火	水	木	金	土
				1 加藤 幸子	2 清水 泰岳	3 保崎 明
4 右田 王介	5 小須賀基通	6 金 慶彰	7 村杉 寛子	8 木村 将裕	9 亀井 宏一	10 清水 泰岳
11 清水 泰岳	12 右田 王介	13 高梨 栄	14 佐和田哲也	15 加藤 幸子	16 清水 泰岳	17 亀井 宏一
18 右田 王介	19 小須賀基通	20 廣瀬 和恵	21 多田 光	22 木村 将裕	23 清水 泰岳	24 右田 王介
25 亀井 宏一	26 小須賀基通	27 細谷 直人	28 宇野 真二			

## ◆ 『新渡戸稲造先生を想う』

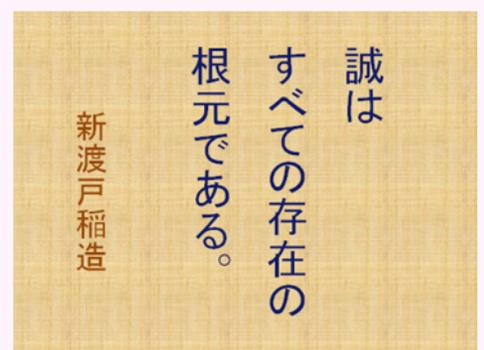
新渡戸記念中野総合病院副院長 山根道雄

新渡戸記念中野総合病院で月1回催される経営推進会議の前後に、『新渡戸の言葉』を出すようになって丸2年になります。『最も必要なことは、常に志を忘れないよう心にかけて記憶することである』、『幾霜雪を経てなお松の青さは変わらず』、『誠はすべての存在の根元である』その都度心に響く言葉を選んでいますが、汲めども尽きずの感があり、平易な言葉のなかに時代を超えた慧眼が散りばめられていて、百年を経た今も決して古くなるということはありません。その新渡戸稲造先生が創立者として関わられた病院に勤務していることを誇りに思い、感謝しています。

昨年暮れにNHKのEテレ「知恵泉」で、新渡戸稲造（前編・後編）が取り上げられました。テーマは「不寛容社会を生きる道しるべ」。教養とは人の話を聞くこと、どんな人にも耳を傾けることこそ寛容であること、武士道とは品位を高めること、そして相手を尊重すること。さらに出演者の方々からは、“学ぶことの基本は聴くこと”、“教育は手作りだ”という言葉が心に残りました。

新渡戸先生の故郷を訪ねて、平成28年7月盛岡市先人記念館の千田館長によるレクチャー『新渡戸と柳田、柳田と金田ー ～柳田國男と二人の先人』を聴きに盛岡へ行きました。大変興味深い内容でしたので、その時のメモを書き記しておきます。

帝大教授新渡戸稲造（45）の「ジカタ（地方）の研究」講演会に参加した柳田國男（33）は強い感銘を受けた。地方研究を科学的に行う必要性、ドイツなどで行われていた地方教育（＝地元の歴史に誇りを持つこと）の重要性を説き、後藤新平のもとで「民俗社会の固有の文化と価値を認める」様々な事業を台湾で実践してきた新渡戸の提案に柳田は感動し、講演会直後に新渡戸のもとに歩み寄り、挨拶し感謝を述べた。新渡戸稲造がホスト役となり、柳田國男が司会進行役で月1回開かれた郷土を研究する談話会「郷土会（ごうどかい）」は、新渡戸が国際連盟事務次長で離日するまで9年続いた。ホストの新渡戸の心配りで、会費50銭で2円の食事を出していた。新渡戸はいつも感心して聴いていた。“ホウ、ソウデスカ…”。その後、柳田國男は新渡戸に招かれて大正10年（1921）国際連盟委任統治委員として渡欧。2年間ジュネーブで過ごし、大正12年（1923）に帰国。新渡戸稲造は柳田國男の恩人。新渡戸と柳田は日本の伝統・文化を誇りに思い、世界の国々と対等な独立国であるために同じ方向を向いていた。



参考文献

佐谷眞木人『民俗学・台湾・国際連盟 柳田國男と新渡戸稲造』（講談社選書メチエ）